

# 会 議 録

(敬省略)

会 議	平成26年度 第2回みのかも定住自立圏共生ビジョン懇談会
日 時	平成26年6月27日(金) 午後14時30分～17時00分
場 所	名古屋テレビ塔2階 会議室
出席者	<p>【ビジョン懇談会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤武志(会長)</li> <li>・高嶋 舞(副会長)</li> <li>・岸田真代</li> <li>・種村浩人</li> <li>・林 尚史</li> <li>・加藤慎康</li> </ul> <p>【(株)対話計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤森幹人</li> </ul> <p>【美濃加茂市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民協働部部長 渡辺久登</li> <li>・地域振興課課長兼定住自立圏推進室長 大畑英樹</li> <li>・定住自立圏推進室課長補佐 安田智洋、主任主査 伊藤浩申、川上明里</li> </ul> <p>【坂祝町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども課課長 伊藤マリ子、課長補佐 兼松邦彰</li> <li>・総務課企画係主任 野村浩貴</li> </ul> <p>【富加町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務課課長 粥川友和、企画グループ長 亀山和彦</li> </ul> <p>【川辺町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画まちづくり課課長補佐 馬場 誠</li> </ul> <p>【七宗町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画財政課課長補佐 塚本 誠</li> </ul> <p>【八百津町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務課課長 青山孝平、政策調整係長 奥村芳弘</li> </ul> <p>【白川町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画課企画係長 藤井充宏</li> </ul> <p>【東白川村】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務課行政係長 桂川憲生</li> </ul> <p style="text-align: right;">合計23名</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 あいさつ</li> <li>2 みのかも定住自立圏 圏域イメージ把握調査の報告(藤森幹人氏)</li> <li>3 第2次みのかも定住自立圏共生ビジョン提案事業</li> <li>4 その他</li> </ol>

会議録（※発言は要約です）

推進室長	<p>開会あいさつ</p> <p>本日は、各町村から提出された概要調書について、町村の担当者と意見交換を行います。</p>
市民協働部長	<p>本日は、第2次共生ビジョンの基本方針の1つである「都市圏とのつながり」という観点から、あえて、名古屋にお集まりいただき、みのかも圏域を考える機会といたしました。近隣市町村職員の皆さまには、遠方よりお越し下さりありがとうございます。</p> <p>多方面の専門家であるビジョン懇談会委員の皆さんと意見交換を行い、みのかも定住自立圏構想が実りある事業となるよう、有意義な時間にしたと思います。本日はよろしくお願ひします。</p>
事務局 (美濃加茂市 定住自立圏推 進室)	<p>本日の日程の確認をします。</p> <p>14:30 第2回ビジョン懇談会</p> <p>16:30 名古屋テレビ塔 イベントスペース 視察 (みのかも圏域のPRの場として検討しています)</p> <p>17:30 終了</p>
藤森幹人 氏	<p><b>【次第に従い進行】</b></p> <p>みのかも定住自立圏 圏域イメージ把握調査の報告について（藤森氏より）</p> <p>私は、まちづくりコンサルタントなどの他、みのかも定住自立圏事業のひとつで、住民・民間団体の活動を支援する「つながる事業」の選考委員としてこの圏域の事業に関わっています。</p> <p>この調査は、第2次みのかも定住自立圏共生ビジョンの策定に生かしていくため、名古屋都市圏とのつながり方を模索するために実施いたしました。圏域が名古屋圏からどのようにとらえられているのか、名古屋圏から何を期待されているのかを明らかにするために、有識者へのヒアリング、各世代別に名古屋圏市民へのグループヒアリングを行いました。</p> <p><b>【圏域イメージ調査について、資料を基に報告】</b></p> <p>岐阜県内でも、平成の大合併によって、大きな規模の市が生まれましたが、イメージ戦略にとって、規模の大きさは、良い面と悪い面があります。</p> <p>圏域全体のPRをしながら、圏域内の自治体の個性が発揮できるように連携していくことが重要です。圏域の外側へ向けた発信力を高める「地域ブランド」と、圏域内に対する地域特有の文化・暮らしの価値を発掘する「地域プライド」をバランスよく進め、「本物」の地域文化形成につなげることが1点目のポイントです。</p>

<p>推進室長</p>	<p>同時に、山間部への玄関口として、美濃加茂市がハブ機能を有し、国道41号沿線都市エリアとみのかも圏域をつなげていくことで、都市圏との交流を進めることが2点目のポイントです。</p> <p>藤森さん、ありがとうございました。</p> <p>今回の圏域イメージ調査を十分活用して、第2次共生ビジョンの策定を進めていきたいと思ひます。</p> <p>それでは、次に、第2次共生ビジョン策定のための、圏域市町村ごとの提案事業について概略を説明後、ビジョン懇談会委員の皆さまより、ご意見を伺いたいと思ひます。</p> <p><b>【第2次みのかも定住自立圏構想共生ビジョン 提案事業（概要調書）について、資料を基に説明】</b></p> <p>ご意見等ございましたら発言をお願いします。</p>
<p>加藤武志委員</p>	<p>本日、折角、近隣町村職員が集まったのですから、事業提案をされる担当職員の方々の意見、事業に掛ける「思い」をお聞きしたい。</p> <p>そこで、質問です。私は名古屋市在住ですが、私がこの圏域に行きたいと思うような各市町村のセールスポイントと、提案事業の中で「一押し」にしている事業のポイントをお話し下さい。</p>
<p>坂祝町</p>	<p>坂祝町は、交通の便が良く、自然が豊かという特徴があります。</p> <p>来年度以降、坂祝町は子育てに力を入れ、町を活性化させたいと思ひています。単に施設を作るのが目的ではなく、人材の育成に重点を置き、運営を民間団体やボランティアに委託し、子どもを持つ世代だけでなく、高齢者や障がい者と子どもが交流できる施設としたいと考えております。</p> <p>また、公園を整備し、散策道として都会の人が、遊びに寄ってもらえるような子育ての拠点づくりをしたいと思ひています。</p>
<p>富加町</p>	<p>富加町は、4キロ四方の小さな町です。日本最古の半布里（はにゅうり）戸籍があり、古くからずっと人が住んでいる自然豊かな町です。そのような背景もあり、富加町では「歴史」を売りとして事業を進めていきたいと思ひています。少しでも多くの人に興味を持ってもらうよう、最古の戸籍のPRブックレット作成や歴史PR漫画を製作したいと考えています。</p> <p>昨年のどまつりにおいて、富加町のよさこい鳴子踊りチーム「半布里チーム」が優秀賞を貰ったことから、全国的に「半布里」の名前が知られました。よさこい鳴子踊りを通じて、富加町をもっと元気にしていきたいと思ひています。</p>

川辺町	<p>「ボート王国かわべプロジェクト」というのは、「ボート選手」だけが活躍する町に、という意味ではありません。現在の川辺町では、3月～10月の土日には、100艇以上の船が川面に滑り、他では、なかなかお目にかかれない風景が広がります。その川岸では散歩や釣りをする人々がいて、ほっとした雰囲気味わえると思います。そんな特別な景色を手軽に見に行ける地域だということを広くPRしたいと思い、この事業を提案しました。</p>
七宗町	<p>七宗町は、下呂や高山へ行く道の途中であり、通過点という認識が根強くあります。飛水峡（ひすいきょう）の景色、紅葉やつつじなど、美しい景色は多々あります。そこで、ひとまず立ち止まってもらうことを主軸に事業を提案しました。</p> <p>飛水峡の飛騨川沿いはくねくねとした溪流で、その様子が「竜」のようであることから、「竜神さんが棲む箱庭のまち」事業の名称が付けました。このあたりを中心に、国道41号線を通る旅行者が立ち寄ってくれるような拠点を作りたいと思います。</p>
八百津町	<p>八百津町は、濃尾平野からつながる山間部の中間に位置します。木曾川等のきれいな水を使った産品（調味料、和菓子、せんべいなど）を生産していることや、五宝滝などの名所があります。</p> <p>以前から民間団体が開催している野外ロックフェスティバルのイベントの規模を大きくすることで、都市圏の人々を巻き込み、交流人口を増やそうと考えています。</p>
白川町	<p>美濃加茂市方面から白川町に入ると、景色ががらりと変わります。急な谷と川、深い森林によって気温も急激に変化します。白川町は、名古屋圏から比較的近い距離で、「田舎」を体験できる地域だと思います。</p> <p>白川町の「一押し」は、名古屋圏からの観光ツアー事業です。</p> <p>白川町では、白川町の宝物さがしをテーマに日々活動し、地域の良さを再発見し、故郷に誇りを持っていくことを計画しています。これらの宝物を名古屋圏の人々に紹介し、体験や宿泊によって、圏域の良さを感じてもらい、交流人口の増加と定住者の増加を狙っていきます。</p>
東白川村	<p>東白川村は、白川町よりもっと奥にあります。しかし、訪れる人々にとってこの村は、自然を見るために来るのではなく、釣りをしたり、陶芸をしたり、自然のものを加工するなど、体験型の人気があります。</p> <p>旅行者は都市圏からここまで来る間に、美濃加茂市あたりで休憩を入れると思います。この「つながるカード」事業はそんなときに利用できると思い、商品カードの価値を高めるため、事業を提案しました。</p>

美濃加茂市	<p>中心市の役割としての事業と、美濃加茂市の特徴を生かした事業に分けられます。中心市の役割として、名古屋テレビ塔を中心に名古屋圏での拠点を作ること、ケーブルテレビやFM放送による圏域情報発信を行うこと、住民の活動を支援する「つながる事業」を行うことです。</p> <p>美濃加茂市のセールスポイントは都市圏からの来訪者がはじめて出会う里山だと思います。里山の生活を感じてもらいたいような事業を進めていきたいと考えています。</p> <p>自然をPRするのではなく、美濃加茂市が圏域の玄関口の役を担い、そこから続く「圏域の多様な体験」の入門編として、圏域の人と人をつなぐ役割を担いたいと思います。</p>
岸田眞代委員	<p>この25個の事業は、各市町村でどのような過程で、提案された事業なののでしょうか。一般的な課題として提出された事業なのか、抱えている課題に対し議論に議論を重ねて提出された事業なののでしょうか。</p>
加藤武志委員	<p>私も岸田委員に同意見です。提出されたこれらの事業は、担い手の人たちと共に協議して、提案されたものかどうかを教えてください。</p>
美濃加茂市	<p>美濃加茂市は、事業を担う民間団体や企業が主体となって、提案された事業と、市担当課が主導して提案した事業が混在している状況です。</p>
坂祝町	<p>子育てする拠点が分散していることが課題となっていました。ファミリーサポート事業を通じ、子育てに関するニーズ調査をしたところ、坂祝町にも子育ての拠点がほしいとの声が多くありました。坂祝町こども課の方針もありますが、この事業は、子育て世代の意見を基に提案する事業です。</p>
富加町	<p>町民に向けて広報誌によりアイデアを募り、主だった団体へは個別に声をかけました。しかし、意見が出てこなかったという経緯があります。唯一民間から出たのが「どまつり in 半布里の郷」事業で、他の3つは町職員から集まったアイデアを精査し、提案事業にいたしました。</p>
川辺町	<p>「川辺ポートコミュニティー」という民間団体が、積極的に事業提案をしていただきました。概要調書は、その民間団体が作成したものです。</p>
七宗町	<p>4月に、住民にアイデアの募集を開始し、もともと活動していた団体にこちらから呼びかけたところ、3つの団体から提案がありました。</p> <p>「竜神さんの棲む箱庭のまち」事業は、かつて行政で活躍していた方々の集まりですが、自分たちの力でまちづくりをしようと活動されており、メンバーも上麻生（かみあそう）地区の住民ばかりです。</p>

八百津町	<p>住民に募集を掛けましたが、応募はありませんでした。そこで職員に募集を掛けたところ、高知県で行っている移住者向けのコンシェルジュ事業が話題にあがり、八百津町でもできないかと企画されたのが「移住・定住コーディネーター事業」です。</p> <p>「地域活性に繋がる文化振興」事業は、八百津町で山小屋カフェを営んでいる民間の方が以前から行っていた活動で、活動を大きくしたいとの希望があったため、町役場から、事業として提案してもらうよう働きかけました。</p>
白川町	<p>事業募集を呼びかけたところ、「農林商工連携による地域活性化事業」は観光協会から提案されたもので、「名古屋市民を白川町へ招くツアー」事業は、商工会で行っていた研修をきっかけに提案された事業です。</p>
東白川村	<p>村民にも職員にもアイデアの募集をかけましたが、何もあがりませんでした。そこで担当課から出てきた事業なのですが、実は3本目という経緯があります。加えて話が進まず、プロセスを報告できません。</p> <p>概要調書で記載された村の出身者へのカード発行について、実は今年度の村単独事業で既に進めています。目的と手段は変わりませんが、手段を大きくする形で進めていきたいと思っています。</p>
林 尚史委員	<p>皆さんの話を聞いて、根本的なことで気になったのは、「みのかも定住自立圏」というエリアに共通したグランドビジョンがあるのかどうか、ということです。このエリアを、どういったエリアとして認知されていきたいのかという、全体のベクトルは揃っているのでしょうか。</p> <p>あまりにも一般的な事業であっては、他地域の独創的な事業に埋もれてしまいます。また、実現性・計画性において、その提案がどこから出た意見なのか、行政からの一方的な意見になっていないか、もう一度考えていく必要があると思います。</p> <p>事業を継続して行くために、経済効果はどれだけ見込まれるのか、中・長期的なブランドに成り得るのか。そして何よりも、「地元の人々が楽しんでいる」かが重要です。成功事例は、地元の人々が楽しみながら事業を進めています。人は、「楽しい」「美味しい」「おしゃれ」なことしか動きません。これらの事について、もう一度考えてほしいと思います。</p>
高嶋 舞委員	<p>「知って来てもらい、体験して住んでもらう」という流れの中で、全体的に「知って」もらうことを重視した事業が多いと感じました。そうなる、「知って」もらった後のストーリーがちゃんと組まれているのか、気になります。</p> <p>最終目的である「住んでもらう」人は、どんな立場の人なのでしょうか。年代によって住む理由が違います。</p>

<p>加藤慎康委員</p>	<p>例えば私は、仕事をしやすい場所や、子育て・教育的な観点から住むところを決めます。このように、誰に住んでももらいたいか、観点を決めてから外部の人に魅力を発信し、ストーリー作りをしていくと良いと思います。</p> <p>例えば、八百津町なら、「オーガニック 100%の栗きんとん」を作る方が名古屋の人は喜ぶのではないかと思います。</p> <p>川辺町は自分の町の特徴を上手くとらえていると思います。このように、それぞれの地域の魅力が一言で表せるような分かり易いストーリーがあると、都会の人は食いつきやすくなります。そのために、美濃加茂市の企業等と連携する流れができれば良いと思います。</p>
<p>岸田眞代委員</p>	<p>都会の人は、都市部では必要がないため自動車を持っていない人が多くいます。そんな中、圏域内で公共交通手段がないのはどうなのでしょう。各地域で個別にやっていくだけでは難しいかと思っています。生活と密着した事業展開が必要です。</p>
<p>林 尚史委員</p>	<p>以前、美濃加茂市長に「美濃加茂市が観光地となるには難しい」という話をしたことがあります。それは、美濃加茂市が適度に発展しているからです。生活基盤がしっかりしていることで、里山や川などの観光資源の存在がかすんでしまうからです。</p> <p>しかし、名古屋圏から1時間圏内という大きなメリットがあるため、圏域に向かうための、ベッドタウンのようなブランドを目指しても良いかと思っています。美濃加茂市の人口を増やし、そこから圏域に向けて人の足を持って行くようにし、このエリアしかない施設を設置していくことができれば、この圏域は面白くなると思います。</p>
<p>種村浩人委員</p>	<p>東海環状自動車道が出来て、雇用的な部分で利点や欠点が生まれたのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>東海環状自動車道の開通により、物流に有利と判断する企業の進出は増えました。その意味で、雇用機会に貢献していると思います。</p>
<p>種村浩人委員</p>	<p>美濃加茂市が観光になりにくいという林委員の意見には納得します。私の住む「いなべ市」も、はじめ観光事業を売り出しましたが、観光名所になりづらかった経緯があります。</p>
<p>加藤武志委員</p>	<p>日本全体が人口減少に向かっています。どんな地域でも今よりも人口は増えないということが前提です。その地域で暮らしている人々が、継続して、暮らし続けられるまちづくりが問われています。また、新しいファンをいかに作るかが重要となります。</p>

<p>藤森幹人 氏</p>	<p>近年の若者のライフスタイルは変化しています。地域プライドや地域ブランドを持つことは、人口安定へのカギとなります。</p> <p>地域の暮らしを取材した雑誌では、「不便だからこそ、その土地へやってきた人」が話題となっています。反響の高さから、「自分のライフスタイルを展開できるか」という情報を人々が求めていることがうかがえます。</p> <p>正直、今回の資料にある提案事業タイトルは、ひとめ見て、魅力あるようなタイトルとは思えません。それは、キャッチーな売り方・魅せ方が足りないのです。</p> <p>その事業の担い手を増やすことが大切です。担い手が見える企画は、惹きつけられるものです。</p> <p>次のステップへの道のりは、自分たちで考えねばならないのですから、険しいと思います。だからこそ、移住者の話を聞き、共に考えてみると何かヒントになると思います。何を求めてこの地域へ来たのかを知り、名古屋などで人の観察をしてみると、別の視点から何かが見えてくるかもしれません。</p>
<p>高嶋 舞委員</p>	<p>自分の魅力は、自分では分かりません。また、自分が感じている魅力と、外部から見た魅力はズレている事があります。そのために、外部の人に自分たちの町を見てもらう事や、話を聞く機会を作るのは良いと思います。</p>
<p>加藤武志委員</p>	<p>高嶋委員の意見に賛成です。地域発の魅力の探し方や、外部の人の視点が必要です。この地域に価値を見出して暮らしている人の話が、キーポイントとなるでしょう。</p> <p>外部人々の視点を知る指標として、藤森氏の圏域イメージ調査のデータは、信用できるツールだと思います。</p>
<p>加藤慎康委員</p>	<p>御嶽山の山小屋を経営する人物が、ヘリコプターで薪を運ぶことは環境に良くないと考え、何かエコ的な活動ができないかと始めた活動があります。「エコ活動に貢献する動きが格好いい」という風潮を広めることで、登山者に薪を運んでもらう代わりに、山小屋で食事を振る舞うという活動です。</p> <p>また、今年の話ですが、紀伊半島に住む移住者を集めたトークイベントをテレビ塔で開催したところ、それが大きな反響を生み、現地へ赴くツアーが開催されるまでに至ったという事例があります。</p>
<p>岸田眞代委員</p>	<p>三重県の行政職員が、企業とNPO（高校生）を結び付けて、あるキャラクターを作り、商品売り出しました。このように、行政職員が橋渡しとなり、利益を生み出せるような仕組みを考えつつ、全体のストーリーを考えていければ良いのではないかと思います。</p>

加藤武志委員	<p>新しい事業を進めていくことにおいて、「きっかけ」となるのは美濃加茂市です。美濃加茂市はその先の圏域に来訪者を進ませるために、努力する必要があります。</p> <p>そして受け入れる町村は、それぞれ特出した地域の「色」が必要です。それには、いかに住民・民間団体らの知恵を借りるかが重要です。</p>
種村浩人委員	<p>やはり現地を見学してみたいですね。</p> <p>富加町では歴史的な事業が多くありましたが、この圏域には歴史的な文化は多いのですか。</p>
事務局	<p>富加町の最古の戸籍や七宗町の石、中山道などが挙げられます。</p>
富加町	<p>歴史的なものは確実に解明されていないものもあり、学者によって説が様々なものもあります。難しいところです。</p>
	<p><b>【次回以降の動きについて】</b></p>
事務局	<p>次回（9月24日）のビジョン懇談会では、各市町村の担当からプレゼンテーションを行い、ビジョン懇談委員の皆さんに、それを評価していただきます。</p>
岸田眞代委員	<p>そもそも何のための審査なのですか。仮に評価をして点数をつける形にすると、点数が低ければその事業は実施しないのですか。</p>
事務局	<p>獲得した点数によって事業を実施しないというわけではありません。まだ原案段階ですが、事業をよりよい方向へ向けるために、項目ごとに点数をつけることで評価をしてもらおうかと考えています。点数という指標を付けることによって、その数値を基に目標を高く持ってもらいたいとの思いがあります。</p>
種村浩人委員	<p>私は点数をつけない方が良いと思います。点数をつけることによって、自分たちの事業と他町村の事業を見比べたり、点数の大小だけにこだわってしまったたり等、変な方向へ向かってしまうのではないのでしょうか。コメント（アドバイス）だけに留めてはどうでしょうか。</p>
加藤武志委員	<p>ビジョン懇談会にて何をゴールとするのか不明確だと思います。点数の技術を深めるようなことは止め、審査する側と審査される側という形にす</p>

岸田眞代委員	<p>るのではなく、本音で話せるような場を作った方が有意義な時間となるはずです。</p> <p>プレゼンをする目的が、我々の評価を受けるものではなく、よりよいものをどうやって作っていくかという協働の場に位置付けなければ、意味がないと思います。</p>
事務局	<p>本日のご意見を参考に、点数による評価にこだわらず、ビジョン懇談会委員の皆さんより多くのアドバイスをしていただけるよう、次回のプレゼンの進め方を検討いたします。</p>
市民協働部長	<p>新しい第2次共生ビジョンに掲載するために、よりブラッシュアップしたものを載せたいと思っています。9月に実施する、提案事業のプレゼンの際に、ビジョン懇談会委員の皆さんから、アドバイスをいただき、完成度の高い事業にしていきたいと思っています。</p> <p>提案事業を詰めていく過程で、今回、藤森さんにご説明いただいた「圏域イメージ把握調査」を、圏域市町村において活用していただきたいと思っています。</p> <p>人がその地域に定住するためには、医療・公共交通が基盤となります。これまで、みのかも定住自立圏の第1次ビジョンでは、それらを含め、行政が主導で行う事業を網羅して進めてきました。</p> <p>これらの事業は、基本的事業として今後も進めながらも、第2次ビジョンは、魅力ある圏域とするため、更に上を目指そうとしています。</p> <p>今後とも、第2次ビジョン事業決定に向けて、ご協力をお願いいたします。</p> <p><b>【終了】</b></p>